

地域連携マネジメント・プロジェクト企画論

愛媛大学社会連携推進機構

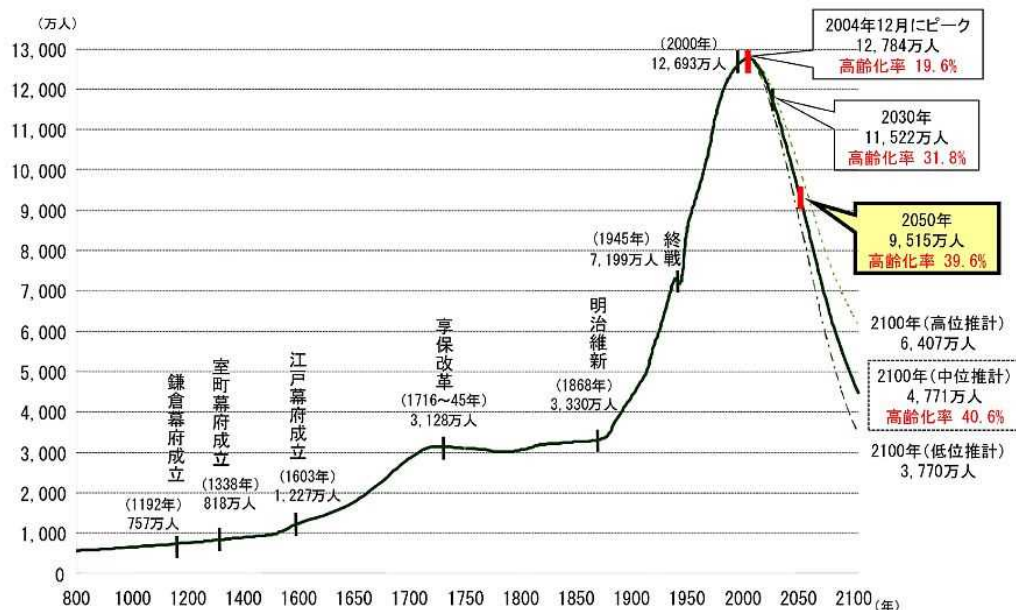
教授 坂本 世津夫

「古いものの上に新しいものを加え、接ぎ木することによって、諸学における大きな進歩を期待しても無駄である。そうではなく最も深い基礎から建て直しをしなければならない、もっとも、ほんの僅かな取るに足らぬ前進をするだけで、永遠に同じ円をぐるぐる廻ることに甘んずるのなら別だが。」(『ノヴム・オルガヌム』新機関 ベーコン著 桂 寿一訳 岩波文庫 青 617-2 80 頁)

現在の日本は大きな転換点を迎えている。2014 年（平成 26 年）から始まった「地方創生」という議論であるが、その根底にあるのが人口問題である。現在まで千年以上にも渡って増加を続けてきた日本の人口が、2004 年 12 月をピークに減少を始め、今後、凄まじいスピードで減少していく。その減少率を少しでも緩めようとする戦略が「地方創生総合戦略」（5 カ年計画）であるが、これだけでは根本的な人口減少をくい止めることはできない。

我が国における総人口の長期的推移

○ 我が国の総人口は、2004 年をピークに、今後 100 年間で 100 年前（明治時代後半）の水準に戻っていく。この変化は、千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。



出典:「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)

人口減少において何が問題かと言うと、いままで数百年もの間、人口が拡大することを前提として作り上げてきた仕組みが、維持できなくなるということである。今までの経験の延長では物事は解決しないし、ベーコンが言うように、「接ぎ木」ではなく物事の根底から違った仕組みを考え出さなければ、問題を解決することは全くできないということである。前例のない仕組みを考えなければならないということである。その為には、社会システムだけではなく、学問領域（諸学）も同様に考える必要があるのではないかと考えている。日本全体に於いても同様であるが、地域（地方）に於いても同様である。社会システムや生産システム、労働環境、生活環境等を根本から見直す必要がある。今までの延長ではなく、新たな仕組みを作ることが求められているのである。

反面、現在は良い環境が整ってきている。ICT活用による新たな産業革命（イノベーション）が可能な時代にあると言える。簡単に言えば、ビッグデータの活用、IoTや人工知能（AI）など新たな技術の活用によるイノベーションである。しかし、現在の日本ではこれらの技術を単に従来の仕組みを置き換える技術としてしか考えていなく、根本的に新たな仕組みを作り上げる発想には繋がっていないと感じる。ベーコンが言うように、「古いものの上に新しいものを加え、接ぎ木することによって、諸学における大きな進歩を期待しても無駄である。そうではなく最も深い基礎から建て直しをしなければならない」のである。

地方の大学においても、そのような研究が必要ではないかと考えている。ICT利活用による地域イノベーションである。

スマート革命

近年、再び「イノベーション」ということが言われるようになった。イノベーションとは、端的に言えば技術革新、創造的破壊である。今からちょうど百年前に、経済学者のシュンペーターが提唱した概念である。ICTを「戦略的」に活用して、既存の仕組みを見直し、革新（創造的破壊）していくこと、**新結合（新しい組み合わせ、新しい組織）**を見つけることが重要なのである。その取り組みを、いま展開しなければと考えている。それは、ICTによる地域イノベーションである。

日本における情報化社会の方向性については、総務省の平成28年版「情報通信白書」を是非ご覧いただきたい。実は、6年ほど前から情報通信白書の編集にも関わってきた。平成28年版情報通信には、「IoT・ビッグデータ・AI〜

ネットワークとデータが創造する新たな価値～」が書かれている。情報通信白書は総務省のホームページからダウンロードできる。オープンデータと言って、政府等が保有する様々なデータは利活用できるように順次公開される方向で整備が進んでいる。このような情報をフル活用して新たな社会を構築しなければならない。それが、「スマート革命」である。スマート革命は、単にスマートフォンを活用することではなく、スマートな社会を創ることにある。

他にも、「ビッグデータ」の活用がある。ビッグデータとは、ICTの進展により生成・収集・蓄積等が可能・容易になった多種多量のデータのことである。フェイスブックやツイッターで発信される内容、マルチメディア機器が生成するデータ、センサーで取得されるデータ、位置情報（GPS）など、多種多様なデータの集合体がビッグデータである。防犯カメラの映像などもその一つである。そのようなデータが、高速ネットワークと検索プログラム、高度な解析プログラムのお陰でフル活用できる時代になった。（平成28年版情報通信白書 <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/html/na000000.html>）

ひと昔前のICTは、単にITであり、単なる処理の道具（ツール）に過ぎなかった。給与計算や電算処理、オンライン処理などがそれにあたる。それが、1995年以降（Windows95）コミュニケーションの道具（ツール）にもなり、一気に利活用の用途が広がってきた。これからは、更に思考の道具（ツール）として活用しなければならない。思考の道具は、AI、IoTにも繋がってくるのである。これから、我々はこれら3つの道具（ツール）を有機的に結合させて、イノベーションを行う必要があると考えている。

ICTは、思考の道具（ツール）である。

考える力を養う。

ICTは、処理の道具（ツール）である。

新たな処理方法を考える。

ICTは、コミュニケーションの道具（ツール）である。

新たな結合を考える。

新結合
↓
イノベーション

このような時代に最も重要な能力が「コミュニケーション能力」であるが、その能力が現在の日本人には不足するように感じる。コミュニケーション能力の定義については、私は次のように考えている。それは、「自分の気持ちや考えを的確な表現と分量で伝えることのできる能力」、「相手の意図や意識を読み解く能力」である。この能力を高めていく必要があると考えている。その為には、基本に立ち返った新たな教育の仕組みが必要である。

また、コミュニケーション能力は、単に人間を相手にするだけではなく、自然や周りの環境ともコミュニケーションする必要がある。その為には、聞く耳を持つ（見る目を持つ）ことが重要である。そして、自然や景観などと対話することが重要である

地域の活性化を進める上で一番重要なことは、地域に暮らしている人々のコミュニケーション力を如何に高めるかである。さらには、地域内だけではなく他地域とのコミュニケーション力を高めることが重要である。

その為には、愛媛県西予市では、平成 27 年度から「西予開成塾」を立ち上げてスーパーキャリア教育（異能教育＝創造性教育）を行っている。

新たな教育（人財育成）

教育プログラム―スーパーキャリア教育 「西予開成塾」

平成 27 年 11 月から、愛媛県西予市で「教育プログラム スーパーキャリア教育 申義堂ここに甦れ！？ 大作戦」（西予開成塾）を始めた。この事業の事務運営（講師派遣等の事務処理）は、愛媛大学COC事務局に委託されている。

内容は、スーパーキャリア教育（異能教育＝創造性教育）で小学校高学年（5・6 年生）を対象とするが（土曜日の午前中）、その前日の夜（金曜日）に、「夜の課外授業」と題して、大人を対象とした講義（サロン）も行っている（起業家養成塾）。

●事業の目的

西予市から、次代を変えることのできる人財の育成・排出を目指して、今までにない「人材育成の仕組み」を構築することを目的としている。端的に言えば、天才児教育（創造性教育）であり、スーパーキャリア教育である。

従来の教育は、知識偏重型教育（多くの知識を詰め込ませる教育）であり、これは知識を記憶するというところに主眼がおかれ、知識の意味を正しく理解し活用するとう能力育成にはなっていない。また、学校教育だけでは世の中にある全ての知識（特に「無知の知」といわれる、未だ知り得ない知など）を教える（知るきっかけを悟らせる）ことは不可能である。



知識を習得させる（記憶させる）ことばかりに集中しては、個々の人材の持っている本来の能力を伸ばすことはできない。

教育として「知識を習得させること」は非常に重要なことではあるが、本当に重要なことは、「知識を知恵に変える能力」、要は「物事を理解し適切に処理する能力」＝「物事を正しく判断する能力」を身につけさせることである。（知識ではなく、能力を身につけさせることである）



今回の「教育プログラム」では、それを実現する仕組みを構築した。

●目指す人材像－異能人材、スーパージェネラリストになりうる人材

人により異なる、潜在的に持っている能力を活かすための教育を行い、能力を発芽させている。スーパージェネラリストの必要条件としては、「複数」の分野におけるスペシャリストとしての能力を持つことである。日本では、単一分野でのスペシャリスト性だけが重視されてきたため、現在のような複雑な社会問題（社会的課題）に対応することができなくなっている。

また、スーパージェネラリストとしては、複数の分野におけるスペシャリスト性を持つと同時に、それらをマネジメント（自己管理）していく能力が必要である。そのような能力が必要であることを「気づかせる」教育を、今回の「教育プログラム」では行っている。

要は、「気づかせる」ことにより、自己のもつ能力を最大限に活かせる人材を育成するのである。

イノベーション（技術革新＝創造的破壊）

イノベーションの為には、ブロードバンド環境をフル活用し、既存の仕組みを常に見直し革新（創造的破壊）していくこと、新結合（新しい組み合わせ）を見つけることが重要である。シュンペーターは、1912年『経済発展の理論』において、以下の5つの類型を提示している。

1. 新しい財貨

すなわち消費者の間でまだ知られていない財貨あるいは新しい品質の財貨の生産

2. 新しい生産手法

すなわち当該産業部門において実際にまだ知られていない生産方法の導入

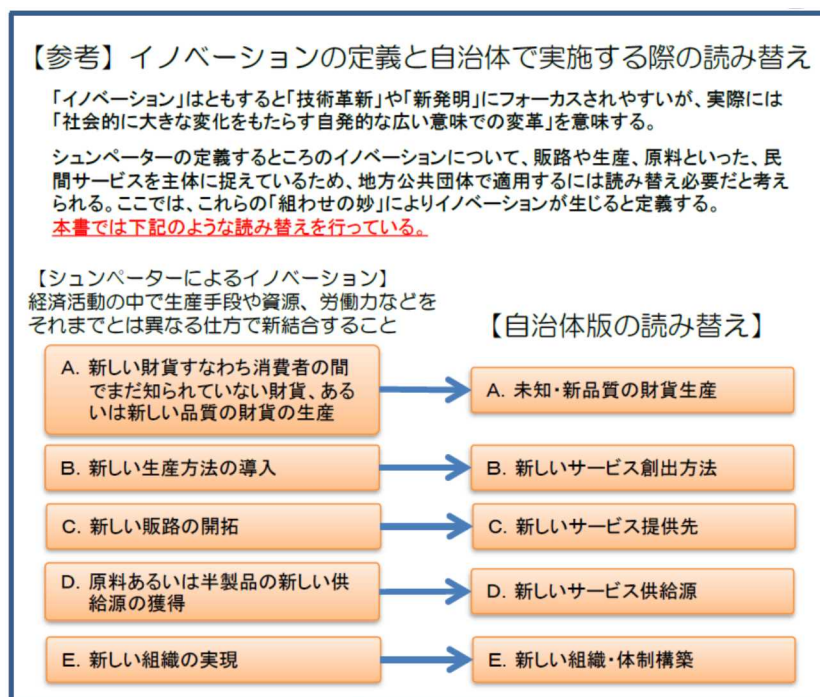
3. 新しい販路の開拓

すなわち当該国の当該産業部門が従来まだ参加していなかった市場の開拓

4. 原料あるいは半製品の新しい供給源の獲得

5. 新しい組織の実現 すなわち独占的地位の形成あるいは独占の打破

一般財団法人全国地域情報化推進協会（APPLIC）のICT地域イノベーション委員会では、この内容を自治体のイノベーションに適用するための取り組みを行っている。自治体のイノベーションには、窓口業務や専門業務におけるIoT、AIの活用も重要であると考えている。



コミュニケーション力の向上

地域の活性化を進める上で一番重要なことは、地域に暮らしている人々のコミュニケーション力を如何に高めるかである。さらには、地域内だけではなく他地域とのコミュニケーション力を高めることが重要である。

コミュニケーション能力（私の定義）

自分の気持ちや考えを、的確な表現と分量で伝えることのできる能力
相手の意図や意識を読み解く能力

聞く耳を持つ（見る目を持つ）

自然や景観などと対話することも重要

ブロードバンドの活用とICT地域イノベーション

ブロードバンド環境では、高品位な画像（映像）や音声、様々な情報を双方向にやりとりすることが可能となる。ブロードバンドは、中山間（田舎）の産業・ビジネスを大きく変える可能性がある。テレワークなど新たな就業形態も可能となる。コミュニティのあり方が変わる。その他にも色々なことが可能になるが、このことがまだまだ十分に理解されていない。

ICT利活用による地域イノベーションには、さらに次のことが重要である。それは、故郷（自分の住んでいる地域）を語れる（誇りをもつ・好きになる）か、世代を越えて地域が一体となれるか、自ら参加するような自発性があるか、人材を育む（人材育成）環境があるか、他地域と連携する能力があるか、それに情報発信力と地域資源の活用力である。

コミュニケーション・デザイン

コミュニケーションは、意識的にデザインする必要がある。T・ローザック『コンピュータの神話学』に中に次のことが書かれている。「高速ネットワーク社会と人間の思考」である。

「コンピュータ処理は、精神の「データ処理」（作業）であって、精神が思考している処理ではない。注意深い努力がなければ、単なるデータ処理にすぎない。機械が情報を処理しているときにやっていることと、精神が思考しているときにやっていることとのあいだには大きな違いがある。重要な事は、精神の思考である。」

T・ローザック『コンピュータの神話学』

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/nkaoru/Cult.html>

我々は、単に処理をしているだけではないだろうか。思考が働いているのか、ということである。

「情報化」は非常に重要なテーマであるが、情報化時代に対応した社会環境を作っていかなければならない。また、それに対応した人材の育成も重要な課題である。しかし、一番重要なことは、リアルな空間、リアルな思考と判断である。

「百聞一見にしかず」と言われるように、いくらインターネット検索を駆使して地理情報や写真、他人が作成した資料などをかき集めても、ただ一回の、自分自身のリアルな体験に勝るものはないのである。

要は、インターネット上での情報と、旅行などのリアルな体験情報の間には、補完できない大きな差があることを認識しなければならない。ICTがあれば、何でもできると思ってしまうのはいけないのである。ICTの利活用は、あくまでも補完手段であることを肝に銘じる必要がある。いつも感じるのであるが、海外旅行に行く前に、現地の情報をいくら検索して調べても、あまり頭の中には入らないが、海外旅行から戻ったあとに検索すると、どんどん知識として蓄積されていく。それは、使える知識であって、単なる知識ではない。この差を理解することが重要ではないかと考えている。コンピュータでいくら便利になっても、精神に思考をさせないと、どんどん退化していくのである。

これからの社会は、今までとはまるで違う社会となるだろう。大都市だからとか、田舎だからとか、関係ない。自分の心に制約を設ける必要性はない。自らの頭で考え、新しい時代を創造（創生）する必要がある。

最後に、サン＝テグジュペリ著 『星の王子さま』より

ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。

いちばんたいせつなことは、目に見えない。

おとなだって、はじめはみんな子どもだったのだから。

（でもそれを忘れずにいる人は、ほとんどいない。）

I C T利活用による地域活性化

地域活性化のポイント

故郷（自分の住んでいる地域）を語れる（誇りをもつ・好きになる）
世代を越えて、地域が一体となる
自ら、参加する
人材を育む（人材育成）
他地域と連携する
情報発信

●ブランド＝地域価値の要素

1. 気象

流氷、雪、霧、雨、爽やかな風、厳しい寒さ、空気のおいしさ、青い空、巻雲、鰯雲、朝日、夕日、夕焼け、満月、三日月、星空、天の川、流星、蜃気楼など

2. 自然

海原、入江、絶壁、磯、砂浜、砂丘、島、岬、火山、温泉、溶岩、特色ある山、見晴らしのよい丘、峠、大河、川原、溪流、滝、せせらぎ、湖、沼、大木、ブナの森、苔むす岩、洞窟、湿原と植生、花の群落、鶴、白鳥、かるがもなど

3. 人文的自然風景

棚田、菜の花畑、れんげ畑、ひまわり畑、果樹園、竹林、杉林、檜林、茅葺き、水車、水路、土橋、生け垣、沿道の花、花園、庭園、枯山水、雪囲い、雪吊り、牧場、漁港、網干し場、魚市場、猫、飼犬、飼象、馬、牛など

4. 構築物

家並み、白壁、黒壁、蔵、迷路、特色ある建築物、寺院、神社、教会、宮殿、劇場、ホテル、美術館、博物館、城塞、塔、煙突、記念碑、赤煉瓦、石橋、釣り橋、鉄橋、橋梁、広場、公園、運動公園、緑地、カスケード、港、灯台、堀割、運河、魚釣場、テーマパーク、登り窯、温泉、遺跡など

5. ストリート・ファニチャーと移動物

美しい広告塔、ショーウィンドー、ベンチ、街路灯、彫刻、壁画、時計、屋台、標識、自動車、電車、新交通、自転車、人力車、駕籠、馬車、漁船、大漁旗、旗、ヨット、観光船、観覧車、窓辺の花など

6. イベント

祭り、博覧会、見本市、スポーツ大会、会議、日曜市、灯籠流し、花火、音楽祭、人形劇、演劇、歌謡祭、彫刻展、国際コンペ、カーニバル、行進、縁日、踊り、民謡など

7. 景観

自然と人工物の全体を統合したもの、色、音、光、香りを加えたもの

8. 雰囲気

風格、清潔さ、賑わい、活気、不思議さ、驚き、落ち着き、静けさ、安らぎ、方言、感動、人の温かさ、もてなし、親切など

9. 人間

服装、帽子、化粧、歩き方、カップル、大道芸人、一芸ある人、人材、国際人、他人の受入可能な人、ガイド、笑顔、ホスピタリティ、子どものキラキラした目など

10. 飲食物

酒、地ビール、そば焼酎、ワイン、ミネラルウォーター、果汁、郷土料理、名物料理、石臼そば、味噌、豆腐、菓子、果物、チーズ、ソーセージなど

11. 特産品・地場産業

和紙、水引き、珨、木蠟、家具、将棋の駒、碁盤、独楽、竹細工、藁細工、農産物、織物、硝子製品、石製品、陶器、鋳物、洋食器、さまざまな工業製品など

12. 物語・事件

史跡、宿場、歴史的事件、小説ドラマの舞台、創作の場、作家の住まい、溶岩流など大災害の跡、鉱山跡、伝説、おとぎ話など

13. 独自の方法

コミュニティ、ゴミ収集、リサイクル、住民参加、NPO、市民活動、生涯学習、自治体行政運営、バリアフリー、健康維持、福祉、高齢者施設など

●地域価値の大分類

1. 風土的価値

気象、自然など

2. 歴史的価値

遺産、事件、物語、記憶など

3. 人の営みの価値

物、仕事（シゴト）、生活（クラシ）、仕組み、イベントなど

要素の評価ポイント

評価できる要素は、挙げればキリがないし、細分化すれば無数になる。これらの要素は項目だけだから、そえをどういう観点から評価するかが重要である。

評価ポイントとしては、1. 美しさ 2. スケール 3. 特異性 4. 驚き 5. 面白さ 6. 生き生きした感じ 7. 気持ちよさ 8. 親しみやすさ 9. 静けさ 10. 味わい深さ 11. 風格の高さ 12. 感動させられるもの などある。

以上、『まちづくりの実践』 田村明著 岩波新書 615 より

地域資源の活用方法

あらためて認識した地域資源を本当に活用するには、しっかりと考える（資源の考察・観察・分析をする）必要がありますが、それと同時に色々な資源や取り組みを繋げていく、**有機的に連携させる「知恵」**が必要である。

その為には、

- 1) **ストーリー性が必要**——繋がり（連携）・広がり
単なる、一資源、一地域だけを考えるのではなく、エリア全体の中での位置付けや連携が必要である。
- 2) **出来るだけ多くの生活者が関わる**
いくらまわりが活動し、仕掛けても、本来の生活者の意識（認識）がなければ、本当の活性化には繋がらない。
- 3) **自分自身のもっている地域資源を再認識し誇りを持つ**
生活者の多くが、自らのもっている地域資源を再認識し、誇りを持つ（非常に重要）ことにより、より良い資源にすることが可能となる。文化的な厚みも増してくる。

アクションプラン（ストーリー性の重視）

情報発信

色々なメディアを活用する（メール、Web、ブログ、Twitter、Facebook など）
ソーシャルメディア ロコミも効果的
誰に対しての情報発信かを明白にする（相手が見えている＝市場が見えている）
マーケット把握（マーケティング・リサーチも重要である）

情報の質を向上させる——**受け取る側を意識した情報づくり**と発信
シンプルがベスト

ラジオ・テレビなどのマスメディアを活用（ストーリー性が重要）
旅行会社の広告（ストーリー性が重要）・・・モデルコース
Web——双方向の媒体にする必要がある
単なる一方的な情報発信では効果がない
情報を受け取る側の「心（心理）」を把握した上での情報発信
ブログ、Twitter、Facebook を活用する（**ソーシャルメディア**）
SNS【Social Networking Service】

写真集・書籍・雑誌などを活用する
動きのない情報＝活字・写真による情報発信も非常に重要である
従来の情報発信では、文章・画像の質が高くない→**より高質な情報を発信**する
受け取る側（ターゲット）を見極める

新たな情報機器の活用

iPad、iPhone、スマートフォン、タブレット端末 等

プロジェクト企画論

国の動きを知る
自治体の動きを知る
課題解決の為にプロジェクトを企画する
企画・提案書を作成する

※ 国や自治体の政策（施策）や、 予算の仕組みを知る。

プロジェクトマネジメント

プロジェクトマネジメント（プロジェクト管理、英語：Project Management）とはプロジェクトを成功裏に完了させることを目指して行われる活動のことである。これにはプロジェクトを構成する各活動の計画立案、日程表の作成、および進捗管理が含まれる。システム開発を成功させるためには、プロジェクトを適切に管理することが求められる。

(wikipedia より 引用)

プロジェクトの特徴（プロジェクト活動には以下の特徴がある）

明確に定義された目標
必ず開始時点と終了時点がある
永続的でない一時的な組織が担当する
1人のリーダー（プロジェクトマネージャ）と
複数のメンバーから構成される
目的達成のための予算が与えられる
いくつかの工程から成り立つ
ライフサイクルの各段階で必要資源が変化する
予期できない事態が発生することがある
後工程ほど変更・修正の困難度が増す

(wikipedia より 引用)

プロジェクトマネジメント活動が成功する条件

期限内に
予算金額内で
期待レベルの技術成果のもと
割り当て資源を有効活用して
顧客が満足する状態で完了する

(wikipedia より 引用)

プロジェクトマネジメントに含まれる活動

企画
リスク測定
利用できる資源の見積り
作業の系統化 WBS (Work Breakdown Structure)の作成
必要な人的・物的資源の確保
費用の見積
チームメンバーへの作業の割り振り
進捗管理
目的に沿った結果が出るように作業の方向性を維持する
達成した結果の分析

(wikipedia より 引用)

事業（予算）の仕組みを考える

個人の活動
夢の実現
資金

公的機関の活動（国・県・市町）
政策の実現
予算

計画が必要

プロジェクト計画

自治体の総合計画
個々の計画（施策）

事業・予算（国や県、市町）の仕組みを知る。

- 4月 当年度の事業・予算スタート
- 9月1日（各省庁は翌年度の予算要求額を公表）
各省庁と財務省との調整（9月～11月頃）
- 9月～11月 県、市町は次年度予算額を検討する（次年度の事業を確定）
遡り、9月までに、次年度の施策（事業）を検討する（玉だし）
- 1月～3月 次年度の事業・予算（施策）を決定する

Point

夢の実現も、政策の実現も、事前の十分な検討があつて始まるのである。
政策の中には、政策を実現するための複数の施策（事業）が含まれる。
政策、施策、事業、予算の概念を理解すること。

ICT 利活用事例等・リンク集

- ・総務省 四国総合通信局

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/shikoku/index.html>

地域情報化の推進とスマート革命（坂本 世津夫）

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/shikoku/ict-jirei/column03.html>

- ・四国情報通信懇談会

<http://shikoku-ict.jp/>

- ・ICT 地域活性化ポータル（総務省）

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/local_support/ict/index.html

- ・APPLIC(一般財団法人 全国地域情報化推進協会)

<http://applic.or.jp/>

- ・地域情報化アドバイザー

<https://www.applic.or.jp/ictadviser/>

- ・総務省 情報通信白書（令和元年）

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/>

- ・まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」「基本方針」

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/mahishi_index.html

- ・四国4国立大学研究者等と連携した地域の実態把握調査（地域住民の生活や意識）
～地域の姿“生の声” &政策改善 “気づき” の提供～ （四国財務局）

<http://shikoku.mof.go.jp/content/000186454.pdf>

- ・平成30年度 西予開成塾通信

https://www.city.seiyo.ehime.jp/kakuka/sangyo_kensetsu/keizai_suishin/seiyokaiseijyukutuushin/index.html

レジュメ

プログラム概要

急速な人口減少、超高齢化社会、従来型産業の衰退と、現在の日本は（日本の地域社会は）大きな転換点にさしかかっている。それを打開させる為に、「地方創生」が叫ばれているが（国では、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、まち・ひと・しごと創生本部を設置している。そして大学には、自治体との連携を強化して打開策に取り組み、地域課題に対応できるように大学改革が求められている）、具体的にどう対応すれば良いのか、国も自治体も大学も打開策を見いだせていない状況にある。今回の講義では、地方創生の意味を理解して、地域が本来持っている資源を如何に活用して地方創生を図るか、教職員は如何にアクションすれば良いのかについて講義を行う。地方創生、地域資源を活用した地域の活性化、地域連携マネジメント・プロジェクト企画のヒントになればと考えている。

キーポイント

1. 前例のない時代に
2. スマート革命
3. 新たな教育
4. イノベーション（創造的破壊＝創生）
5. ブロードバンド環境
6. コミュニケーション
7. コミュニケーション・デザイン
8. リアルと仮想
9. ICT 利活用による地域活性化
10. Society 5.0
11. 仕組みを考える（国、自治体の予算・施策）